

- 宮古地域は、マンゴーの栽培面積が増加しているが、品質と栽培技術の平準化が課題。
- このため、農業改良普及課では、マンゴーの選果基準の統一化を提案するとともに、栽培技術の支援を実施する。
- 平成28年度には、マンゴーの生産量760トンを目標とする。

### 目標とする成果

#### 1 マンゴー生産の現状を把握

- JA、市町村等と連携した調査により、マンゴー生産の現状を把握
- 普及指導員、JA、市町村、農業革新支援専門員等の知見により現状の把握と改善策の検討



#### 2 マンゴーの品質向上

- 統一した基準による秀品率の向上  
(H26→H28)  
秀品率 2%→3%
- 組織出荷率の向上  
(H26→H28)  
JA出荷 17%→20%



#### 3 マンゴーの生産量等の増加

- 安定生産技術により、農家の収益が向上  
(H26→H28)
- ①生産量  
760トン(H26)→760トン
- ②単位当たり収量  
1,000kg/10a(H26)→1,000kg/10a

### 今回の普及活動の特徴

- ・農業革新支援専門員の指導力を十分に発揮し、助言、指導体制を構築。
- ・地域の課題を解決するため、普及組織がJA、市町村等関係機関と連携した活動を展開。

### 目標を達成するための普及活動

平成26～28年

■マンゴー生産の現状を把握するとともに、改善策を検討する会議の開催

■新規就農者等への技術指導

■マンゴーの選果基準の統一化

■マンゴー実証圃の設置等により生産技術の向上

■マンゴー規格外品の活用促進



### 関係機関との連携

・農業革新専門員は、県内先進地の情報提供やプロジェクトの推進方策について、普及指導員に助言。

・農業改良普及課の呼びかけにより、市町村、JA等と連携した協議会を開催し、選果基準や栽培技術の定着を図る。